

事業所名	インクルー多賀教室
------	-----------

公表日 2026年 3月 25日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	3	運動スペースと学習スペースを分けて過ごしている。中学生が多いたるときに、もう少しスペースがあると感じるときがある。4月からは中高学年からの、2階に多賀プラスを開設し、年齢で分けた療育が行う環境が用意されている。室内での鬼ごっこの時にも職員がいつでも止められるように配置をしている。	法令を厳守したスペースを確保している。中学生が多いたるときに、もう少しスペースがあると感じるときがある。4月からは中高学年からの、2階に多賀プラスを開設し、年齢で分けた療育が行う環境が用意されている。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	利用児童の特性を考慮したうえで、配置の対応をしている。	法令で必要とされている職員の数を配置できている。他害をする児童や、送迎時に職員が必要と感じるため、送迎可能な職員を増やしていく。個別対応では人数が必要なため、職員研修や共通理解・非常勤職員にもしっかりと子どもの様子などを伝えていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			バリアフリーとなっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		気が散るものは極力なくし、おもちゃ等も貸し借りのスキルを学べるような環境設定になっている。	学習に必要な壁面等、今後も増やしていきたい、楽しい空間づくりを目指していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		適宜子どもの状態や気持ちを聞きながら、状況に応じて対応している。	今後も臨機応変に場所の提供を行っていく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		事業所内研修を定期的に行い、職員は必ず参加している。研修レポート等で振り返りを行っている。	日々の振り返りを定着させ、PDCAサイクルの共有を行っていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			業務改善に繋げていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々、職員間で話し合う雰囲気を作り、また月に一回の打合せなどを行い、意見を聞いている。	今後も職員の意見などを把握しながら、より良い支援や運営に繋げていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価は行っていない。	必要に応じて取り入れていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		e-learningを活用し、研修を行う。年間を通して、研修を行っている。	積極的に外部の研修にも参加し、研修報告の内容を元に全体で共有していく。
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		Instagram・ブログ等で療育の様子等を伝え、保護者会等で療育の内容を伝えていく。	今後も適切な支援プログラムの作成に努め、周知されるように努めていく。	
12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメントから計画書を作成し、面談時に個別支援計画について保護者と話し合っている。	今後も保護者の悩みに応じ、計画を作成し6ヶ月毎に見直す。必要に応じて修正や追加を行っていく。	
13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、放課後等デイサービス管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援会議を通して、支援の意図を伝え、疑問があったら話し合いを重ね、子どもにとって最善の方法を職員一同で話し合っている。	今後も支援会議を定期的に行い、子どもの最善の利益を考慮した検討を実施していく。	
14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		どのように支援をしていくかを、日々話し合い、確認している。アセスメントを見返しながら職員間で療育へのアイデアと共有している。	定期的に計画の見直しや意見交換を行っていく。	
15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		インフォーマルなアセスメントについて、職員間でよく話し合っている。	活動中の様子、日常の活動等を観察し、職員間での話し合いを今後も継続していく。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のわらわら及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		モニタリングで面談を行う際に、保護者と子どものニーズを聞き、その中で適切に設定が出来るように心がけている。より具体的なわかりやすい内容になるように今後も心がけていきたい。	今後もアセスメントを行う際、保護者の思いや考えを元に計画を立て、具体的な支援内容を設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員で案を出し合いながら、楽しめるように工夫している。	毎日、話し合いを行い、それぞれの専門性と知識と経験を持ち合わせ、チームで活動について考えている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月ごとのプログラムを参考に季節に合ったものなど、創意工夫をしている。	個々に合わせた活動プログラムを設定し、状況に合わせて変更や修正していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		本児のニーズに合わせて、個別・集団の両方の支援内容を取り入れて計画している。	今後も本児のニーズに合わせて、個別・集団の両方の支援内容を取り入れ、必要に応じて修正した計画を立てる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		職員が集まった時間に、支援の内容や配置、個別対応の分担等について確認している。	今後も連携しながら、より良い支援を目指していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後や翌日に、振り返りや情報の共有を行っている。	今後も時間を設けて、反省や改善したい点など、情報の共有と共通理解ができるよう努めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	毎日子どもの様子や支援内容を記録している。職員同士のコミュニケーションを大事にしている。	具体的な内容で情報共有できるよう努め、支援の検証や改善に繋げていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6ヶ月毎に行い、面談時に保護者と話し合っって見直しをしている。	今後も定期的な計画の見直しを行い、適切な内容になっているか確認していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		自立支援と日常生活の充実のための活動・創作活動・地域交流の機会の提供・余暇の提供の中から複数を組み合わせた支援を実施している。	今後も個々の発達に合わせ、「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせた支援を実施していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		個々の発達に応じて、自己選択ができるよう環境に配慮している。	今後も自信に繋がる成功体験をとおして、自己決定をする力や判断力の育成に繋げていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		関係機関連携を通して、学校と相談支援員さんとお子様の支援について情報交換と支援の方法について話し合いをしている。	必要に応じて、今後も必要のある児童に関しては継続して行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		管理者が主導となり、関係機関との連携を図るよう努めている。契約時、保護者にも丁寧な説明をしている。	関係機関との連携を強化できるよう努めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		チャット、電話連絡などで適切に対応している。わからない時には、こちらから積極的に保護者・学校へ連絡をしている。	今後もチャット、電話連絡などで適切に対応していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、放課後等デイサービス事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	保育園・幼稚園、他事業所等との情報共有を積極的に行っている。	今後も就学前に利用していた保育所や幼稚園等、また他事業所等との情報共有と相互理解に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する利用児が今のところいない。	今後は移行支援等を通して、情報提供を行っていく。
	31	地域の放課後等デイサービスセンターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	スーパーバイズは設けてはいないが、相談員から助言・相談、県主催の研修会に管理者を中心に参加していく。	今後も相談員からの助言をいただいたり、積極的に研修等に参加していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5	現時点での計画はない。	必要に応じて機会を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	現時点での参加した事はない。	声を掛けてもらえるよう依頼する。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時、および電話、面談等で状況や事業所での様子を伝えている。	今後も送迎時や電話、面談で状況や事業所での様子を伝えていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	今年度も保護者向けの勉強会は企画したが、参加者がいなかった。来年度もペアレントトレーニングの実施を予定している。	必要に応じて機会を増やしていき、参加できる機会を増やしていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も契約時に丁寧な説明を行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントを取る際、保護者の考えや思いに寄り添い、利用児や家族の意向を確認しながら計画を立てている。	今後もアセスメントを取る際、保護者の考えや思いに寄り添い、利用児や家族の意向を確認しながら最善の利益を考慮しながら計画を立てていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		契約時に説明を行い、同意を得ている。	契約時の丁寧な説明を行い、同意を得られるよう努めていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		随時面談が可能であり、必要に応じて事業所からも面談の提案をさせていただいている。	悩みや支援の仕方に戸惑いがある際は、状況の変化や様子について詳しく聞き、情報共有に努めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会を実施し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者間での交流の場になるよう配慮している。また、相談員の方を含めて情報の共有や支援内容の把握に努めている。	保護者会を年に1度は実施し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者間での交流の場になるよう配慮している。また、相談員の方を含めて情報の共有や支援内容の把握に努めている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		職員間で話し合い、迅速な対応を行っている。	今後も迅速な対応に努め、管理者及び代表への報告・連絡・相談を徹底していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		インスタ、ブログでの配信を行っている。	今後もインスタ、ブログを活用し、週に1回の目安でイベントの様子等を配信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		細心の注意をはらいながら、対応している。職員全員が誤解を与える発言も控えている。	保護者の意向を確認しながら、今後も細心の注意をはらい対応していく。
44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		絵カード文字カードやジェスチャー、筆談を通してコミュニケーションを取れるように配慮している。	意思疎通を円滑に行えるよう、今後も絵カード・文字カードや筆談、PCなどを用いて意思疎通に努めていく。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	現時点では事業所の行事に地域住民を招待する等の計画はない。	ニーズがあれば、必要に応じて機会を検討していく。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを職員に周知し、研修を通して訓練等も行っている。訓練の様子をブログや保護者会において保護者にも周知している。	発生を想定した避難訓練を定期的に行っていることを、保護者に周知できるようにしていく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に避難訓練を実施している。救命救急の講習を受け、消火訓練等も年に2回行っていく	定期的に避難訓練を実施している。今後も2~3年に1度は救命救急の講習を受け、消火訓練等も年に2回行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に聞き取りを行い、受診後も状況を保護者から随時連絡をいただいている。	今後も保護者との連携を図り、受診や服用の経過を聞き取りしていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		個々に応じてアレルギーの症状は違うため、保護者との連絡を密にし、職員全体で周知している。	今後も定期的にミーティングを設け、対応の確認やケース検討を実施していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成しており、十分に注意をはらって支援している。	安全計画に沿って、今後も十分に注意をはらって支援していく。
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も契約時に丁寧な説明を行い、疑問や質問があれば対応していく。	

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎月、管理者会議で報告し、他教室のヒヤリハットも含め、再発防止や改善策について意見交換を実施している。	今後も、同様に実施をしていく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を年に2回、管理者は県や市の研修会に参加をして、職員に周知をしている。	委員会等の内容を踏まえて、今後も適切な対応を職員全体で理解できるよう努めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時に丁寧な説明を行い、個別支援計画書に記載をしている。	今後も契約時に丁寧な説明を行っている。

事業所名		インクルー多賀教室					公表日	2026年 3月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3	3	まだ、訪問の機会がないので、どのようなものがあかわからない	実施にしている教室から情報をいただき、必要なものを準備していきたい。		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	時間帯によっては、人数により、訪問員がぬけることでの不安がある。	シフトや送迎の調整などを、他教室からもヘルプをお願いするなどに対応する。		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		事業所内研修を定期的に行い、職員は必ず参加している。研修レポート等で振り返りを行っている。	日々の振り返りを定着させ、PDCAサイクルの共有を行っている。		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			業務改善に繋げていく。		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々、職員間で話し合う雰囲気を作り、また月に一回の打合せなどを行い、意見を聞いている。	今後も職員の意見などを把握しながら、より良い支援や運営に繋げていく。		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価は行っていない。	必要に応じて取り入れていく。		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		e-learningを活用し、研修を行う。年間を通して、研修を行っている。	積極的に外部の研修にも参加し、研修報告の内容を元に全体で共有していく。		
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	6		保育所等訪問は未実施	しっかりとアセスメントを行い、ニーズを取り入れて、客観的に分析していく		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		保育所等訪問は未実施	支援会議を定期的に行い、子どもの最善の利益を考慮した検討を実施していく。		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	6		保育所等訪問は未実施	実施する際には定期的に見直しや意見交換を行っている。		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		保育所等訪問は未実施	実施する際には活動中の様子、日常の活動等を観察し、職員間での話し合いをしていく。		
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		インフォーマルなアセスメントについて、研修にて職員間で確認することになっている	活動中の様子、日常の活動等を観察し、職員間での話し合いを今後していく。		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	6		研修にてガイドラインを確認し、内容設定が出来るようにしている	今後もガイドラインに沿った内容で設定していく		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		保育所等訪問は未実施	実施の際には計画書を支援会議等で共有していく		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		保育所等訪問は未実施	実施の際には職員が集まった時間により確認や打ち合わせを行う		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		保育所等訪問は未実施	実施の際には送迎終了後、職員が集まった時間により振り返りを行う		

関係機関や保護者との連携	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	6		保育所等訪問は未実施	打ち合わせで施設の理念を聞き取りしたうえで、尊重した計画・支援を行っている
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	6		記録を取ることは必須のため、実施した際には改善していく	記録は必ず行い、支援の検証や改善に繋げていく
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6ヶ月に一度の見直しをする	モニタリング・見直しを行っていく
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		関係機関連携を通して、学校と相談支援員さんとお子様の支援について情報交換と支援の方法について話し合いをしている。	必要に応じて、今後も必要のある児童に関しては継続して行っていく。
	21	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		管理者が主導となり、関係機関との連携を図れるよう努めている。契約時、保護者にも丁寧な説明をしている。	関係機関との連携を強化できるよう努めていく。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		相談員を通して、就学に向けての情報交換や学校に訪問して、情報共有をしている	移行支援等を通して、情報提供を行っていく。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6		管理者が主導となり、研修に参加し、職員に情報共有をしている	今後も継続しておこなう
保護者等への説明等	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6		現時点での参加した事はない。	声を掛けてもらえるよう依頼する。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時、および電話、面談等で状況や事業所での様子を伝えている。	今後も送迎時や電話、面談で状況や事業所での様子を伝えていく。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		今年度も保護者向けの勉強会は企画したが、参加者がいなかった。来年度もペアレントトレーニングの実施を予定している。	必要に応じて機会を増やしていき、参加できる機会を増やしていく。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も契約時に丁寧な説明を行っていく。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	6		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も契約時に丁寧な説明を行っていく。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保育所等訪問は未実施	子どもの最善の利益のために、本人や家族の意向を尊重していく。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	6		保育所等訪問は未実施	同意を得る前に、しっかりと説明を行っていく
保護者等への説明等	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	6		随時面談が可能であり、必要に応じて事業所からも面談の提案をさせていただいている。	悩みや支援の仕方に戸惑いがある際は、状況の変化や様子について詳しく聞き、情報共有に努めていく。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会を実施し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者間での交流の場になるよう配慮している。また、相談員の方を含めて情報の共有や支援内容の把握に努めている。	保護者会を年に1度は実施し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者間での交流の場になるよう配慮している。また、相談員の方を含めて情報の共有や支援内容の把握に努めている。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		随時面談が可能であり、必要に応じて事業所からも面談の提案をさせていただいている。	悩みや支援の仕方に戸惑いがある際は、状況の変化や様子について詳しく聞き、情報共有に努めていく。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		インスタ、ブログでの配信を行っている。	今後もインスタ、ブログを活用し、週に1回の目安でイベントの様子等を配信していく。

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		細心の注意をはらいながら、対応している。 職員全員が誤解を与える発言も控えている。	保護者の意向を確認しながら、今後も細心の注意をはらい対応していく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		絵カード文字カードやジェスチャー、筆談を通してコミュニケーションを取れるように配慮している。	意思疎通を円滑に行えるよう、今後も絵カード・文字カードや筆談、PCなどを用いて意思疎通に努めていく。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	6		保育所等訪問は未実施	今後は、相談に応じる体制や支援が出来るようにしていく
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	6		保育所等訪問は未実施	訪問時にカンファレンスと記録の提示をするなど、情報共有を図る
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	6		保育所等訪問は未実施	実施時にはHUG等を通して、支援内容の共有を行う
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		細心の注意をはらいながら、対応している。	保護者の意向を確認しながら、今後も細心の注意をはらい対応していく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	6		保育所等訪問は未実施	専門的な視点で助言を行えるように研修等で自己研鑽を行っている
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを職員に周知し、研修を通して訓練等も行っている。訓練の様子をブログや保護者会において保護者にも周知をしている。	発生を想定した避難訓練を定期的に行っていることを、保護者に周知できるようにしていく。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成しており、十分に注意をはらって支援している。	安全計画に沿って、今後も十分に注意をはらって支援していく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎月、管理者会議で報告し、他教室のヒヤリハットも含め、再発防止や改善策について意見交換を実施している。	今後も、同様に実施をしていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を年に2回、管理者は県や市の研修会に参加をして、職員に周知をしている。	委員会等の内容を踏まえて、今後も適切な対応を職員全体で理解できるよう努めていく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		契約時に丁寧な説明を行い、個別支援計画書に記載をしている。	今後も契約時に丁寧な説明を行っている。

事業所名	インクルー多賀教室					公表日	2025年 3月 25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	運動スペースと学習スペースを分けて過ごしている。	法令を厳守したスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	利用児童の特性を考慮したうえで、配置の対応をしている。	法令で必要とされている職員の数を配置できている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			バリアフリーとなっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		気が散るものは極力なくし、おもちゃ等も貸し借りのスキルを学べるような環境設定になっている。	個別課題に必要な壁面等、今後も増やしていき、楽しい空間づくりを目指していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		適宜子どもの状態や表情を見ながら、状況に応じて対応している。	今後も臨機応変に場所の提供を行っていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		事業所内研修を定期的に行い、職員は必ず参加している。研修レポート等で振り返りを行っている。	日々の振り返りを定着させ、PDCAサイクルの共有を行っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			業務改善に繋げていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々、職員間で話し合う雰囲気を作り、また月に一回の打合せなどを行い、意見を聞いている。	今後も職員の意見などを把握しながら、より良い支援や運営に繋げていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価は行っていない。	必要に応じて取り入れていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		e-learningを活用し、研修を行う。年間を通して、研修を行っている。	積極的に外部の研修にも参加し、研修報告の内容を元に全体で共有していく。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		Instagram・ブログ等で療育の様子等を伝え、保護者会等で療育の内容を伝えている。	今後も適切な支援プログラムの作成に努め、周知されるように努めていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		アセスメントから計画を作成し、面談時に個別支援計画について保護者と話し合っている。	今後も保護者の悩みに応じ、計画を作成し6ヶ月毎に見直す。必要に応じて修正や追加を行っていく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援会議を通して、支援の意図を伝え、疑問があったら話し合いを重ね、子どもにとって最善の方法を職員一同で話し合っている。	今後も支援会議を定期的に行い、子どもの最善の利益を考慮した検討を実施していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		どのように支援をしていくかを、日々話し合い、確認している。アセスメントを見返しながら職員間で療育へのアイデアと共有している。	定期的に計画の見直しや意見交換を行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		インフォーマルなアセスメントについて、職員間でよく話し合っている。	活動中の様子、日常の活動等を観察し、職員間での話し合いを今後も継続していく。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		モニタリングで面談を行う際に、保護者と子どものニーズを聞き、その中で適切に設定が出来るように心がけている。より具体的なわかりやすい内容になるように今後も心がけていきたい。	今後もアセスメントを行う際、保護者の思いや考えを元に計画を立て、具体的な支援内容を設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員で案を出し合いながら、楽しめるように工夫している。	毎日、話し合いを行い、それぞれの専門性と知識と経験を持ち合わせ、チームで活動について考えている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月ごとのプログラムを参考に季節に合ったものなど、創意工夫をしている。	個々に合わせた活動プログラムを設定し、状況に合わせて変更や修正していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		本児のニーズに合わせて、個別・集団の両方の支援内容を取り入れて計画している。	今後も本児のニーズに合わせて、個別・集団の両方の支援内容を取り入れ、必要に応じて修正した計画を立てる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		職員が集まった時間に、支援の内容や配置、個別対応の分担等について確認している。	今後も連携しながら、より良い支援を目指していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後や翌日に、振り返りや情報の共有を行っている。	今後も時間を設けて、反省や改善したい点など、情報の共有と共通理解ができるよう努めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	毎日子どもの様子や支援内容を記録している。職員同士のコミュニケーションを大事にしている。	具体的な内容で情報共有できるよう努め、支援の検証や改善に繋げていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6ヶ月毎に行い、面談時に保護者と話し合っで見直しをしている。	今後も定期的な計画の見直しを行い、適切な内容になっているか確認していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		サービス担当者会議や関係機関との会議には管理者はじめ職員も参加し、参加した際は記録を残し、職員間で情報の共有に努めている。	今後も機会をいただけるよう声を掛ける。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		関係機関との連携を図れるよう努めている。契約時、保護者にも丁寧な説明をしている。	関係機関との連携を強化できるよう努めていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		インクルージョンの観点から支援を行っている。保育所や認定こども園、幼稚園等との間で、支援内容等の情報共有も行い、支援に繋げている。	保育所等訪問をはじめ、支援内容等の情報共有と相互理解を図り、療育の方向性を定めていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		学校の先生と情報共有の機会を設けたり、園の主任の先生と共通理解を図るほか、相談員との連携は図れている。	今後も相談員との情報共有を密にし、必要であれば就学先の機関との連携も検討していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	スーパーバイズや助言や研修を受ける機会には設けていない。	研修等があれば検討していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	現時点での計画はない。	必要に応じて機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時、および電話連絡で状況や事業所での様子を伝えている。	今後も送迎時、および電話連絡で状況や事業所での様子を伝えていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		家族等の参加できる研修の機会は現時点での計画はない。	必要に応じて機会を検討していく。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も契約時に丁寧な説明を行っていく。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントを取る際、保護者の考えや思いに寄り添い、利用児や家族の意向を確認しながら計画を立てている。	今後もアセスメントを取る際、保護者の考えや思いに寄り添い、利用児や家族の意向を確認しながら最善の利益を考慮しながら計画を立てていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		契約時に説明を行い、同意を得ている。	契約時の丁寧な説明を行い、同意を得られるよう努めていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		随時面談が可能であり、必要に応じて事業所からも面談の提案をさせていただいている。	悩みや支援の仕方に戸惑いがある際は、状況の変化や様子について詳しく聞き、情報共有に努めていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会を実施し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者間での交流の場になるよう配慮している。また、相談員の方を含めて情報の共有や支援内容の把握に努めている。	保護者会を年に1度は実施し、活動の内容や方針等を伝えると共に、保護者間での交流の場になるよう配慮している。また、相談員の方を含めて情報の共有や支援内容の把握に努めている。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		迅速な対応を行っている。	今後も迅速な対応に努め、管理者及び社長への報告・連絡・相談を徹底していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		インスタ、ブログでの配信を行っている。	今後もインスタ、ブログを活用し、週に1回の目安でイベントの様子等を配信していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		細心の注意をはらいながら、適切な対応をしている。	保護者の意向を確認しながら、今後も細心の注意をはらい対応していく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		絵カード文字カードやジェスチャー、筆談を通してコミュニケーションを取れるように配慮している。	意思疎通を円滑に行えるよう、今後も絵カード・文字カードや筆談、PCなどを用いて意思疎通に努めていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		現時点では事業所の行事に地域住民を招待する等の計画はない。	ニーズがあれば、必要に応じて機会を検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを作成し、契約時に説明・周知している。	年間計画を元に、発生を想定した避難訓練や研修等を定期的に行っている。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に避難訓練を実施している。救命救急の講習を受け、消火訓練等も年に2回行っていく。	定期的に避難訓練を実施している。今後も2~3年に1度は救命救急の講習を受け、消火訓練等も年に2回行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時に聞き取りを行い、受診後も状況を保護者から随時連絡をいただいている。	今後も保護者との連携を図り、受診や服用の経過を聞き取りしていく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		マニュアルを作成し、職員全体で周知している。	今後も定期的にミーティングを設け、対応の確認やケース検討を実施していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成しており、十分に注意をはらって支援している。	安全計画に沿って、今後も十分に注意をはらって支援していく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も契約時に丁寧な説明を行い、疑問や質問があれば対応していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎月、管理者会議で報告し、他教室のヒヤリハットも含め、再発防止や改善策について意見交換を実施している。	今後も、同様に実施をしていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を年に2回、管理者は県や市の研修会に参加をして、職員に周知をしている。	委員会等の内容を踏まえて、今後も適切な対応を職員全体で理解できるよう努めていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も契約時に丁寧な説明を行っている。	